

《歯学部 口腔保健学科》

・ディプロマポリシーに強く関連するものは○、関連するものは◎を記入する。

| 科目名 | ディプロマポリシー | 【1. 知識・理解】 | | | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | | 【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|--------------|----------------------|----------------------------|---|---|---------------------------------------|---|--|---|--|---|----------------------|--|
| | | 口腔保健・福祉を理解し、その専門知識と技能を有する。 | (1)歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助に関する基本的技能を有する。 | (2)患者やその家族あるいは保健・医療・福祉関係者と良好なコミュニケーションができる。 | (3)チーム医療や保健福祉活動の一員として、その役割を果たすことができる。 | (1)口腔保健・福祉の学習を通して社会人としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。 | (2)医療や介護を必要とする人々に対して、慈しみと思いやりを持って支援し、生涯にわたる自主的かつ継続的に学習する能力を持つ。 | (3)歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化に高い関心を持ち、学習態度に高い自主的かつ継続的に学習する能力を持つ。 | 関連分野における事象や課題について自ら学び、適切な判断と必要な行動ができる。 | | | |
| 一般教養科目群 | | | | | | | | | | | | 人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。 |
| | 歴史と文化 | ○ | | | | | | | | ○ | | ・人間の営みが創造してきた文化や社会事象とその過程・現れ方などを学び、現代社会におけるそれらの意義を考える。 ・歴史を学び、これまでに形成されてきた文化や人間の有り様の表現、その広がりを学び、その意味について考え、探索する。 ・人文科学分野(歴史学、文学、言語学、考古学、地理学、文化人類学、芸術など)を中心に社会科学分野(経済学、社会学など)への視野を広げる。 |
| | 人間と生命 | ○ | | | | | | ○ | | | | ・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの複眼的な思考をすることを中心とし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。 |
| | 生活と社会 | ○ | | | | ○ | | | | | | ・生命の仕組みを理解し、現代社会を取り巻くさまざまな諸課題について考える。 ・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法律学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ視野を広げる。 |
| | 自然と技術 | ○ | | | | | | | | ○ | | ・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代でもあり、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につけることを目標とする。 ・これまでの自然科学のみならず工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。 |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | ○ | | | | | | | | ○ | | 国際文化やグローバルスタンダードの理解を通して、実社会におけるグローバル化社会に対応した研究・開発・業務などの展開力を学ぶ。 |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | ○ | | | | | | | | | ○ | さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。 |
| 基礎基盤教育科目群 | | | | | | | | | | | | 大学での専門分野を学ぶ前提となる数学・理科などの基礎力を得ること、さらには自立的学習能力や心身の健康の自己管理能力など、大学生としての基礎となる能力を修得する。 |
| | 高大接続科目 | ○ | | | | | | | | | | 高校の数学Ⅲを未履修又は学びが不十分である場合、数学Ⅲについて学び、大学生としての基礎となる能力を修得する。 |
| | 自然科学入門 | ○ | | | | | | | | | | 高校の物理学・化学・生物学の単なる補習でなく、高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身のまわりの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを学ぶ。 |
| | ウェルネス総合演習 | | | ○ | | | | | | | | 健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにした演習、実習により総合的に学び、考える。 |
| 汎用的技能教育科目群 | | | | | | | | | | | | 学術的な手法としてのアカデミック・スキルを理解し、さまざまな知見を応用的、創造的に発揮するための論理的思考、倫理モラル、プレゼンテーションなどについて学ぶ。 |
| | SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ | | ○ | ○ | ◎ | | | | | | | 専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。 |
| | 情報科学 | ○ | | | | | | | | ○ | | 情報の取り扱いやその倫理などの基本を学ぶ。PC、計算ソフトの使い方がら始めて、レポート作成法、PCを用いたプレゼンテーションへの対応やインターネットの利用、そのモラルを学ぶ。 |
| 医療基盤教育科目群 | 臨床心理学 | ◎ | | | | ◎ | | | ○ | | ○ | 医療系の学生を中心に、医療分野に関わる臨床心理学の基礎知識を獲得し、各自の専門領域において臨床心理学が果たす社会的意義を理解し、患者さんへの対応、チーム医療、健康な社会づくりを行うための技法を学ぶ。 |
| 外国語教育科目群 | | | | | | | | | | | | 英語をはじめとするドイツ語、フランス語、中国語の学修を通じ、語学力や外国語を通して文化理解力の獲得を目指す。 |
| | 英語 | | | | | ◎ | ○ | | | | ○ | 基礎英語は、大学で学修する上で基礎となる基礎力の確認と習得を目指す。上級英語は主に国際対応した内容の英語に關して、自主的に積極的に学修することを目指す。発信型英語は、授業に積極的に参加し、英語の運用能力を高め英語による発信力を身につけることを目指す。 |
| | 英語以外の外国語科目 | | | ○ | ○ | | | | | | | 初級の外国語(「入門」と「初級」)について、基礎力と自ら学んでゆく発展力を学ぶ。 |
| 専門教育科目 | 解剖学・生理学・生化学 | ◎ | | | | | | ○ | | | | 解剖学では全身の解剖学的知識を習得し、それらが密接に口腔と連携することを理解する。また生理学では細胞の基本構造を理解し、内分泌ホルモンの産生・分泌、生体作用、機能亢進と機能不全、分泌調節、輸送と代謝などを習得する。生化学においては人体諸臓器の発生・分化・加齢の仕組みおよびそれに伴う変化や異常による病態、口腔内構造物の発生・分化・機能について学ぶ。 |
| | 口腔解剖学・口腔生理学 | ◎ | | | | | | | | ○ | | 顎顔面口腔領域の局所解剖学的知識を学習するとともに顎頭部の骨格系や筋系および神経系や内臓系の機能発達を学習する。さらに歯の形態と構造を理解し、固有の歯種の判別ができ、歯の形態を理解する。また口腔領域諸臓器の生理機能についての知識を習得し、口腔の果たす役割、摂食行動、咀嚼運動、嚥下機構などを理解する。 |
| | 病理学・口腔病理学 | ◎ | | | | | | ○ | | | | 疾患の原因と病態に関する基本的知識を習得し、さらに顎口腔領域の様々な疾患の成立をトータルな生命現象として理解する。 |
| | 薬理学・歯科薬理学 | ◎ | | | | | | ○ | | | | 薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、薬物を安全かつ効果的に利用する能力を身につける。 |
| | 微生物学・免疫学 | ◎ | | | | | | ○ | | | | 微生物の種類と特性ならびに生体の防御機構を理解し、感染症の基礎的な知識、理論を身につける。また口腔細菌の特徴と病原性を理解する。 |
| | 歯科衛生士概論 | ◎ | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ○ | 国民のQOL向上に貢献する歯科衛生士として、その業務と役割についての知識を習得する。 |

| 科目名 | ディプロマポリシー | 【1. 知識・理解】 口腔保健・福祉を理解し、その専門知識と技能を有する。 | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | | 【4. 統合的な学習態度と創造的的思考力】 関連分野における事象や課題について自ら学び、適切な判断と必要な行動ができる。 | 科目の教育目標 | |
|-----|-----------------|--|--|--|--|--|---|---|---|--|---|
| | | | (1) 歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助に関する基本的技能を有する。 | (2) 患者やその家族あるいは保健・医療・福祉関係者と良好なコミュニケーションができる。 | (3) チーム医療や保健福祉活動の一員として、その役割を果たすことができる。 | (1) 口腔保健・福祉の学習を通じて社会人としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。 | (2) 医療や介護を必要とする人々に対して、慈しみと思いやりを持って支援することができる。 | (3) 歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化に高い関心を持ち、生涯にわたり自主的かつ継続的に学習する能力を持つ。 | | | |
| | 歯科衛生統計 | ◎ | | | | ○ | | | | 疫学とEBMの概念を理解し、臨床や地域保健の場で得られた情報を客観的に分析して評価する能力を修得する。 | |
| | 衛生行政 | ◎ | | | | ○ | | | | わが国における衛生行政の目的、組織とその意義について理解する。また、関連する法規の内容を修得する。 | |
| | 衛生学・公衆衛生学 | ◎ | | | | ○ | | | | 人々の健康を保持増進するための社会医学を理解し、包括的な問題解決方法の考え方を習得する。 | |
| | 口腔衛生学 | ◎ | | | | ○ | | | | 口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、口腔疾患の予防法を習得する。これらの知識と技術を生かして、個人から集団を対象としたレベルでの口腔保健管理を実践できるよう理解を深める。 | |
| | オーラルヘルスプロモーション | ◎ | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | オーラルヘルスプロモーションを理解し、実践できる力を修得する。 | |
| | 口腔保健衛生学基礎実習 | | ◎ | | ◎ | | | | ◎ | 講義等で習得した口腔保健学に関する知識を基にして、関連する基礎実習を行うことにより、その内容の理解を深めるとともに、問題解決に必要な態度と能力を養う。 | |
| | 医療情報処理学 | ◎ | | | | ○ | | | | パソコンに慣れ親しみ、歯科医療の中でコンピュータがどのように活用されているのかを知ることが目的である。 | |
| | 医療安全管理学 | ◎ | | | ◎ | | ○ | | | 歯科医療の質と安全を確保するために、具体的に医療現場で行われる必要な業務を把握し、医療事故を未然に防ぐ知識と心構えを習得する。 | |
| | 早期臨床実習 | ○ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 歯科医療系学生における人間力を高めるため、早期から学生自らのコミュニケーション能力を向上させ、ホスピタリティ・マインドを体得し、また、口腔保健従事者としての自覚や倫理観を習得するために学外の社会福祉施設等において体験実習を行う。またこれらから学ぶ口腔保健学に対する学習意欲を向上させることを目的として、実際の歯科医療現場を見学し、歯科医療従事者の業務内容を体験する。 |
| | 発達系歯科学 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ◎ | | ○ | 小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防ならびに治療法を理解する。また、顎口機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口機能の育成および個性正常咬合獲得を口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。 |
| | 保存系歯科学 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ◎ | | ○ | 保存治療の種類と内容を理解し、チーム医療を実践するために必要な知識を修得する。 |
| | 補綴系歯科学 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ◎ | | ○ | 顎口機能について理解するとともに、障害がある場合に補綴装置によって機能、形態、審美を回復し維持するための診断、治療、術後管理法について学習する。 |
| | 外科系歯科学 | ◎ | | | ◎ | | ○ | | | | 顎・口腔領域に発現する様々な病変や疾患に関する知識を身につけ、それらの疾患を対象とした診療の中における歯科衛生士の役割と患者とのかわり理解することを目的とする。 |
| | 歯科放射線学 | ◎ | | | ○ | | ○ | | | | 歯科診療の診断に必要な放射線を有効かつ安全に利用するための知識と技能、さらにはチーム医療に必要な基本的な手技を習得する。 |
| | 歯科麻酔学 | ◎ | | | ◎ | | ○ | | ○ | | 歯科診療において痛みのない安全で有効な処置を行うために必要な歯科麻酔学の知識を理解し、チーム医療に必要な基本的な手技を修得する。また歯科治療中の安全管理と危機管理を修得する。 |
| | 歯科保健指導論 | ◎ | ○ | | | ○ | ○ | | | | 人々の口腔保健や疾病予防のニーズにあった支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決できる知識・技術を修得する。 |
| | 歯科診療補助論 | ○ | ◎ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | 歯科診療補助を行う上で必要な知識を修得することを目的とする。 |
| | チーム歯科医療学 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 医療・介護制度やチーム(歯科)医療がどのように実践されているかを把握し、その中で歯科衛生士の役割を理解することを目的とする。 |
| | チーム歯科医療学基礎実習 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。 |
| | 高齢者口腔保健衛生学 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | 老化に伴って現れる高齢者の身体的、精神的特徴、口腔領域の諸変化および老人性疾患などについて理解し、介護予防に繋がる高齢者に対する口腔ケアや生活支援を実践するために必要な知識と技術を習得する。 |
| | 障害者口腔保健衛生学 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 障害の種類や特性を理解し、障害者の口腔健康管理を支援するための基本的知識を身につける。 |
| | 摂食・嚥下リハビリテーション学 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 近年、脳血管障害や高齢者の嚥下障害に対するリハビリテーションが注目され、多職種医療スタッフによるチームアプローチが行われている。現在、摂食・嚥下リハビリテーションに携わる歯科衛生士はまだ少数であるが、口腔ケアの専門職という立場からチームに必須と求められる本授業では、将来的に摂食・嚥下リハビリテーションに携わることができるように、摂食嚥下機能法の基礎知識を習得した歯科衛生士を育成する。 |
| | 栄養学 | ◎ | | | | ○ | | | | | 栄養学の基礎を学ぶことを目的とし、生体が外部からエネルギーや物質を取り入れて利用し、正常な生活を営む過程を理解する。 |
| | 口腔疾患予防学 | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | 口腔疾患予防を実践するための具体的な知識を習得し、個人または集団を対象とした歯科保健指導が実践できるよう理解を深める。 |
| | 口腔疾患予防学実習 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | | 口腔疾患予防のための基本的知識、技術を習得し、歯科予防処置、歯科保健指導を個人あるいは小集団を対象として応用できる技能を身につける。 |
| | 口腔介護学 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 介護の概念や範囲を理解し、具体的な介護技術を身につける。身体的・精神的な変化に対応できる観察力や対処法を身につけ、速やかに多職種に連携及び協力できる。さらに、要介護高齢者や障害者に対して口腔保健の立場から関わるために、療養の管理、機能訓練並びに日常生活の支援を行うための基本的知識、技術を理解する。 |
| | 現代社会と福祉 | ◎ | | | ○ | ◎ | | ◎ | | ○ | 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解し、福祉制度の課題、発達過程、構成要素、関連政策について修得する。 |
| | 社会調査の基礎 | ○ | | | ○ | | | ◎ | ◎ | | 社会調査の基本的事項を理解し、社会調査に係る社会福祉士の役割を修得する。 |
| | 相談援助の基盤と専門職 | ◎ | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | ◎ | 社会福祉士、介護福祉士および精神保健福祉士の法制度を理解する。相談援助のための理念を理解し、適切に行動するための知識を身につける。他の福祉専門職の役割や業務の範囲を理解する。 |

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | 【2. 汎用的技術】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | | 【4. 統合的な学習態度と創造的的思考力】 | | 科目の教育目標 |
|-----|--------------|----------------------|---|---|---------------------------------------|---|--|--|--|-------------|---|---|-----------------------|---|--|
| | | 口腔保健・福祉を専門知識と技能を有する。 | (1)歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助に関する基本的技能を有する。 | (2)患者やその家族あるいは保健・医療・福祉関係者と良好なコミュニケーションができる。 | (3)チーム医療や保健福祉活動の一員として、その役割を果たすことができる。 | (1)口腔保健・福祉の学習を通して社会人としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。 | (2)医療や介護を必要とする人々に対して、慈しみと思いやりをもって支援することができる。 | (3)歯科医療の進歩や社会のニーズの変化に高い関心を待ち続け、生涯にわたって自主的に学習する能力を持つ。 | 関連分野における事象や課題について自ら学び、適切な判断と必要な行動ができる。 | | | | | | |
| | 相談援助の理論と方法 | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | 社会福祉を推進するために必要な相談援助(ソーシャルワーク)の理論と方法について理解する。さらに、さまざまな事例研究・分析を通してケースマネジメントによる相談援助方法を修得する。 |
| | 地域福祉の理論と方法 | ○ | | | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | | ○ | 地域福祉(コミュニティソーシャルワーク)の概念を学習するとともに、地域福祉の実践に必要な理論と方法について理解する。 |
| | 福祉行政と福祉計画 | ○ | | | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | | ○ | 福祉行政と福祉計画の基本的事項を理解し、社会福祉の位置づけ、枠組みを修得する。 |
| | 福祉サービスの組織と経営 | ◎ | | | ◎ | ○ | | | | ○ | | ○ | | ○ | 福祉サービスのの中核を担う専門職として、福祉サービスを提供する組織やその経営や管理について基礎的な知識を習得する。 |
| | 社会保障 | ◎ | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 社会保障制度に関する基本的事項を理解し、社会保障全般に係る社会福祉士の役割について修得する。 |
| | 高齢者福祉 | ○ | | | ◎ | ○ | ○ | | | | | | | | 老人福祉の社会的背景や理念、目的について理解させる。また、老人福祉、老人保健および介護保険制度の概要とサービス体系、内容および利用手続き等、具体的な実践活動を理解させる。さらに、老人福祉サービスと関連行政の一体的運用の必要性や民間ヘルパーサービスの現状とその社会的意義について理解させる。 |
| | 障害者福祉 | ○ | | | ◎ | ○ | ○ | | | | | | | | 障害者福祉の基本的な考え方を理解し、障害者に対する相談援助活動を行うための知識・技術を身につける。 |
| | 児童・家庭福祉 | ○ | | | ◎ | ○ | ○ | | | | | | | | 児童が生活する環境や福祉に関するニーズと各種サービス、児童福祉の法体系、実施期間、施設を理解する。児童福祉および関連分野の専門職種や相談援助活動について理解を深める。 |
| | 公的扶助 | ○ | | | ◎ | ○ | ○ | | | | | | | | 社会保障・社会福祉の基礎をなす公的扶助について理解し、また市民社会において必要不可欠な領域として機能していくための手立てについて理解する。 |
| | 保健医療サービス | ○ | | | ◎ | | | | | | | ◎ | | | 医療保険制度、保健医療サービスの基本的事項について理解し、保健医療サービスに係る社会福祉士の役割を修得する。 |
| | 就労支援サービス | ○ | | | ◎ | ○ | | | | | | | | | 就労支援制度の基本的事項を理解し、就労支援に係る社会福祉士の役割を修得する。 |
| | 相談援助演習 | ◎ | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | ロールプレイング等を中心とする演習形態により、専門的技術を習得することを目的とする。特に、学生が自分自身で学習し、考え主体的に行動する態度を涵養し、この演習を通して、他の機関や職種との連携方法や注意点について理解する。 |
| | 相談援助実習指導 | ◎ | | | ◎ | ○ | ◎ | | | | | | | | 社会福祉施設・機関での現場実習の意義を理解し、実習施設に応じた事前の準備や心構えを習得することで現場実習を効果的に進めようとする。 |
| | 相談援助実習 | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | | | | | | | ○ | 社会福祉施設・機関における現場実習を通して、現代の社会福祉・医療現場における相談援助技術の実践方法を学ぶとともに、社会の動向をとらえる感性と情報収集能力を養い、社会福祉の理論と実践を一連のものとして理解する。 |
| | 総合医科学 | ◎ | | | ◎ | | | | | | | | | ○ | 歯科衛生士、社会福祉士に必要な臨床医学を総合的に修得するとともに、これらの知識と技術を生かして、チーム医療の中で専門職としての業務を実践できるよう理解を深める。 |
| | 医療倫理学 | ◎ | | ◎ | | | | | | ○ | | | | | 医療・歯科医療における倫理の重要性を理解し、歯科衛生士の義務と責任に関する基本的な知識、態度及び考え方を学ぶ。 |
| | 基礎看護学 | ○ | | ◎ | ◎ | | | | | ○ | | | | ○ | 看護学を始めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目であり、学習を通して看護学に対する興味と関心を高めることをめざす。 |
| | 口腔保健衛生学臨床実習 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 口腔保健基礎学系および口腔保健支援学系の各講義で学んだ知識に加え、チーム歯科医療学実習で学んだ他のスタッフとの連携、記録と報告、管理運営の実務等、「歯科診療補助」全般について実際の臨床の場で確認する。また、「口腔疾患予防学実習で学んだ「歯科予防処置」や「歯科保健指導」に関して患者の個別性に応じた技術や指導等についても習得する。さらに徳島大学病院に入院している患者を対象としてベッドサイドで専門的口腔ケアを実践できる能力を養成する。 |
| | 口腔保健衛生学臨床実習 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 臨床教授等の開設する歯科診療所、学校現場や保健所、有病者や障がい者関連の施設等において、指導教員の指示の下に施設職員との連携を行いながら歯科予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助が適切に実践できる能力を養うことを目的とする。 |
| | 卒業研究 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 本学科で学んだ知識と技術を踏まえて口腔保健学あるいは社会福祉学に関するテーマを選択し、自ら計画・立案する。さらにその計画に基づいて研究を行い、その成果を口頭で発表し、論文にまとめることにより研究への理解と意欲を養う。 |